



陸の水

No.12

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター 2001年4月

発行：日本陸水学会東海支部会
住所：467-0003名古屋市瑞穂区汐路町3-40
名古屋女子大学生活環境学科内
Tel. 052-852-9739, 052-852-9421
Fax. 052-852-7470

第3回研究発表会および第4回支部総会報告

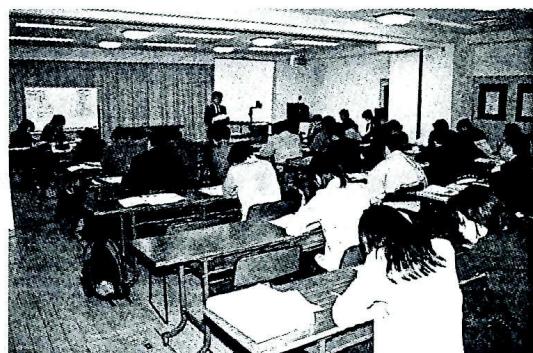
去る2001年3月24日に、日本陸水学会東海支部会の第3回支部発表会および第4回支部総会が三重県三重郡菰野町湯の山「希望荘」で開催されました。

発表会は、会場が若干不便であったにも拘らず、40名の参加者と20題の講演があり、盛会であつたことを幹事一同感謝しております。

陸水の物理、化学、生物の各分野にわたる多彩な発表に対し、頭が混乱しながらも新しい知識の吸収に努める状況は、陸水学の特徴を充分發揮した発表会であったと感じております。それに加え、今回は農学の方々に参加いただいたて、新風が吹き込まれました。雨が林地に降ってから地下水、渓流水などが形成される過程は、陸水学にとっても大変重要な過程であると考えられます。それが解明されつつあることが実感でき、興味深いものでした。

12時30分に始まって17時30分まで、5時間休憩なしの強行軍でしたが、座長、発表者をはじめ、皆さんのご協力を得てスムースに発表会が進行したことを感謝します。

総会では2000年度事業（ニュースレター「陸の水」No.9～11発行、陸水調査研究助成（2件）、東海地域の陸水探訪（3か所））および2000年度会計決算をご承認いただきました。引き続いて2001年度事業としてニュースレター「陸の水」発行、陸水調査研究助成（2件）、東海地域の陸水探訪、身近な陸水調査（新規）および2001年度予算案をご承認いただきました。幹事一同あと1年を頑張って参ります。事業実行の折りには会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。（佐野方昂）



研究発表会風景



懇親会



エクスカーション報告

エクスカーション 智積養水と蟹池、三重県保健環境研究所

研究発表会・総会から一夜明けた3月25日、三重県保健環境研究所の加藤進さんのご案内でエクスカーションに出かけました。あいにくの雨にもかかわらず14名が参加し、四日市市郊外の智積養水（名水百選の一つ）とその水源池「蟹池」、さらに三重県保健環境研究所を見学しました。

鈴鹿山脈から流出した三滝川の伏流水が蟹池に湧き出たのち、智積養水として流れ出しています。蟹池の澄んだ水は水深が5mもあるようには思えず、流出先の水路には様々な水草が青々と生い茂っていました。付近の寺には水車が保存されており、かつての水と人との密接な関わりを示していました。用水路が川を横切る場所では、川の下に設置した「伏樋」を水が通っているとのことでした。この伏樋、昔は木の板で造ってあったそうです。智積町地内では、住民によって智積養水が再生・保存されており、鯉の泳ぐ清流が町内を巡っています。かつては生活用水として利用されていたようで、野菜を洗ったり洗濯をしたりしていた様子が目に浮かびます。

智積養水の例のように、古来、人は地下水を上手に利用してきたようです。それは、日本では地下水がいつも清く澄んだ水を提供してくれるからであると思われます。河川水は雨が降れば濁りますが、地下水は土壌を通過する間に土壌粒子や土壌微生物の働きにより、綺麗で安全な、しかも年中変わらぬ温度の水を無償でもたらします。これを利用しない手はないのです。科学技術が進んだ今日においても、良質な地下水の確保、有効利用は極めて重要な課題のように思われます。そのためには正常な水循環系の再生と保全が必要となります。

智積養水の後、三重県保健環境研究所の施設を見学させてもらいました。研究所の1階にある環境学習情報センターには、県民のための環境教育施設と環境情報が容易に得られる装置が備えられていました。県民サービスをコンセプトとしたこの施設は平成11年夏に開設され、最新の設備が整えられており、今後の成果が期待されます。

若干の時間的余裕があるということで、隣接する国際環境技術移転研究センター（ICETT）の施設を見学しました。宿泊施設のVIPルームに入室させてもらい、2時間余に及ぶエクスカーションを終えました。

あとで聞いたことですが、加藤さんは松坂にお住まい、休日にわざわざ出向いていただいてご案内下さいました。快くお引き受け下さったことを感謝いたします。





2001年度事業案内

「身近な陸水調査」事業のご案内

2001年度の新規事業として「身近な陸水調査」を実施します。

学校教育の場でゆとり教育・環境教育が採用され、地域では環境NGOが活発に活動を始めています。ところが、人々の目は貴重な自然環境あるいは問題が生じている環境に向けられ、身の回りにある身近な環境、ありふれた環境はかえりみられずに、いつのまにか環境破壊が進行しているのが現状であろうかと思います。このような情勢のもと、身近な環境の対象としての陸水を、正確にかつ深く認識することが大変重要になります。そこで私たち陸水学会会員が果たす役割は極めて大きいと言えます。

この事業は、中・高校生（理科クラブ）あるいは環境NGOなどを対象にして、そのグループの身近にある川、池、地下水、等に出かけ、実際に五感で感じながら陸水学実習を行い、陸水学の基礎を学んでもらおうという事業です。

調査に必要な用具（プランクトンネット、顕微鏡、流速計など）は会員の皆さんからお借りすることになろうかと思いますので、ご協力をお願いします。

この他、ポリビン等の消耗品や参加者に掛ける保険などを事業費として計上します。

事務局では、参加グループを公募します。参加を希望するグループは下記まで連絡をお願いします。また、会員の皆様の近くに該当するグループをご存じでしたら情報をお寄せください。

連絡先

陸水学会東海支部 担当幹事 佐野方昂

〒474-0026 愛知県大府市桃山町4丁目31番地

tel : 職場 052-910-5490, 自宅 0562-46-3550

e-mail : d-subaru@mx4.mesh.ne.jp

2001年度陸水調査研究助成募集

2001年度の陸水調査研究助成を、下記の要領で募集します。

1. 対象

陸水学に興味を持ち、具体的な研究を計画している個人またはグループ。支部会員以外も応募可。小中学生の場合は、応募者を保護者または指導の先生にして下さい。

2. 助成額

一件あたり 50,000 円

3. 採用件数

2 件

4. 調査研究期間

2002年3月までに報告書が完成するものとします。

5. 報告の義務

2002年2月28日までに、調査研究の報告書を提出してください。

6. 応募の方法

同封の応募用紙に必要事項を記入し、2001年6月30日までに申し込んで下さい。

7. 申し込み・問い合わせ先

名古屋女子大 八木明彦

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

tel 052-852-9421 fax 052-852-7470

e-mail yagi@nagoya-wu.ac.jp

8. 審査および採否

2001年7月上旬に審査委員会にて採否を決定し、応募者に通知します。



陸水学会東海支部会

2000年度会計報告

平成13年3月24日に行われた第4回総会において、2000年度収支決算、2001年度収支予算とともに承認されました。

2000年度収支決算

[収入]

費目	2000年度予算	2000年度決算	備考
前年度繰り越し金	409,818	409,818	
会費収入	180,000	224,000	一般103,学生6,団体3分
雑収入	0	0	
寄付金	0	0	
利息	0	258	
計	589,818	634,076	

[支出]

費目	2000年度予算	2000年度決算	備考
郵送料	60,000	46,230	陸の水9・10・11, 総会案内
ニュースレター発行費	30,000	2,000	
要旨印刷費	60,000	42,000	
雑費	30,000	25,647	P.N.ファンド助成発表会経費補助 20,000
普及活動費	100,000	100,000	研究助成金 50,000 2件
予備費	309,818	0	
総計	589,818	215,877	
繰り越し金		418,199	

[資産]

郵便局振替口座	341,600
東海銀行口座	60,832
現金	15,767
合計	418,199

2001年度収支予算

[収入]

費目	2001年度予算	備考
前年度繰り越し金	418,199	
会費収入	213,000	一般96,学生9,団体3
寄付金	0	
利息	0	
雑収入	0	
計	631,199	

[支出]

費目	2001年度予算	備考
郵送料	60,000	
ニュースレター発行費	10,000	
要旨印刷費	50,000	
普及活動費	150,000	研究助成金 50,000*2
雑費	30,000	
予備費	331,199	
計	631,199	

会費納入について

同封の郵便振替払込書の記載をご確認の上、年会費の納入をお願いします。記載に誤りがありましたら、通信欄にその旨ご記入下さい。

納入済の方にも払込書が同封されています。入会希望の方にお渡し下さい。

会員名簿の更新について

同封した名簿の登録内容に変更がありましたら、会費払込書の通信欄にご記入下さい。なお、e-mailアドレスをお持ちの方はできるだけお知らせください。

会員名簿登録内容変更の連絡先

払込書通信欄以外で連絡される場合は下記まで

岡 一郎

466-0833 名古屋市昭和区隼人町17

南山高等・中学校女子部

e-mail 16oka@ic.nanzan-u.ac.jp